

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより

第8号

2004年8月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://homepage3.nifty.com/biotope/index.html>

発行責任者： 篠崎 将

Tel/Fax: 04-7173-6353

盛況の中に終わる

みんなでふれよう！ いきもの展示とホタルのお話

市政50年 柏の自然を考えるフォーラムー

7月17日(土) さわやか県民プラザでポスターセッション・講演会が開かれ、柏の自然環境を守る約20の市民団体のパネル展示による熱心な日頃の活動紹介、120名を越える参加者の交流と熱心な質疑応答、が行われ、盛況の中に終わりました。午前9時からの準備に続いて12時から行われたポスターセッションは各参加団体制限時間5分以内には収まりきれないほど内容豊富でした。午後2時から全員、大研修室で小俣軍平先生のクロマドホタルについての熱意あふれるお話に引き込まれました。



講演中の小俣軍平先生

ポスターセッションのトップをきって「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」から



は稲作・不耕起部会の活動内容を才川さん、ホタルと生きもの部会を松清さん(写真左)が代表してプランターに入った稲の実物や鳥のカービング展示、四季の植物写真パネルで紹介しました。終了後の参加者アンケート「参考になったり興味もてた展示」の中では「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」を選んだ人が一番多かったことは嬉しいことでした。前日からのパネル搬入作業を含め、準備にご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。来年は6月頃に開催する予定です。(松本徳重)



「下田の森」代表の高橋さん

当日の参加団体：柏市環境保全課、こんぶくろ池を考える会、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会、さかいね下田の森自然公園友の会、増尾の自然を守る会、牧場跡地の緑と環境を考える会、柏ホタルの会、NPO ホタル野、大堀川の水辺をきれいにする会、沼南・手賀沼ボランティア会、手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会、柏フオトスリー、柏第八小学校、名戸ヶ谷小学校。

柏の自然を考えるフォーラムに参加して

こんぶくろ池を考える会

代表 大貫遵子



「こんぶくろ」代表の大貫さん

「名戸ヶ谷ビオトープ」に自然保護グループ共同展示の相談をしたところ、「ホタル講演会」の場での合同パネル展示企画へと話が発展しました。短い準備期間でしたが、3回に亘る実行委員会を経て当日を迎え、参加者120名の大成功を収めました。小俣先生の講演には、こんぶくろ池にもホタルが発見できるかも、との希望をもちました。また、各グループのポスターセッションには新たな胎動を感じました。柏の自然保護運動の交流にとり貴重な機会となりました。市の環境保全課をはじめ、フォーラム成功のために努力いただいたみなさんに心からお礼を申し上げます。

不耕起稲作部会

不耕起稲作部会の水田は不耕起と冬季湛水の効果で雑草が少なく省エネ・省力の特徴が実感できました。今年は害虫の発生も少なく無農薬で経緯しています。びっくりしたのは、大量に発生したサカマキガイが稲一株に10匹位木登りしていることです。稲には害はないようですが、なぜ登るのか不明で現在調査中です。



炎天下でのネット張り

7月17日の市制施行50年記念事業「みんなでふれよう！柏の生きもの～生きもの展示とホタルのおはなし～」に水田部会・不耕起部会で参加し稲作の素晴らしさを訴えました。

初穂が7月19日に発見されました。今年は暑い日が続き、どこの水田も初穂が早いそうですが5月22日に田植えをした稲が約60日で初穂とは稲の素晴らしさ・強さを感じます。稲刈りは8月下旬から9月上旬と早くなりそうです。

雀対策を行いました。7月31日・8月1日の両日にわたって水田部会の会員と共にネット張りを行いました。(才川 寿磨)

水田稲作部会

今年は豊作になりそうです。稲穂が出揃い、一部は首を垂れ始めました。昨年より10日ほど早いですね。草取りは、6月12日に会員で、7月6日には名戸ヶ谷小の5年生と会員、環境保全課の皆さんで行いました。また、18日には会員で最後の草取りを行いました。時期が少し遅れてしまい、草が多く強く大変でした。参加者の皆さん、暑さも厳しく本当にご苦労様でした。来年は更に多くの会員のお手伝いをお願いします。今年は雀対策として、ネット張りを不耕起部会の皆さんと合同で行いました。(小笠原 智)



最後の草取り



D2横の遮光ネット張り

ホタル観察会

ホタル部会では先に遮光ネット張りをしたケイヨーD2 横および ホタル発生を確認していた市内の別の2カ所を順次まわりながら、7月31日夜7時からホタル観察会を行いました。D2横には18人が参加し、水辺に近い草むらの3ヶ所で総数20匹以上の光っているホタルを観察することができました。

車に分乗して移動した次の地点では参加者26人に増え、下の草むらや見学者の頭の上を流れ星のように飛ぶ何匹かのホタルを見ることができました。捕まえたホタルを掌にのせてじっと眺めている子どもたちもいました。ついで、近くのホタルが自然発生している場所に移動し、9時に解散しました。

去年のD2横のホタル観察会は延べ800人の参加で大盛況でしたが、今年は事前調査でホタルの飛翔があまり見られなかったため、ピオトープ会員と柏ホタルの会関係者に限った今回のようなかたちの観察会となりました。



ほら捕まえたよ！（D2横にて）

生態系調査（春）

5月29日（土）10時から12時まで、ビオトープ生態系調査を行いました。今回は参加者を二組に分け、前半後半で入れ替えて、動物と植物の両方に参加できるかたちで実施しました。講師は前回と同じ、植物担当に岩瀬徹氏、動物に浅間茂氏と柄沢保彦氏。参加会員は16名でした。当日は天候に恵まれた上に参加者の年齢層も幅広く、有意義な調査が実施できました。記録の上で今回初めて発見された種は、動物ではオオヨシキリ、カメノコテントウムシ、コアシナガバチ、モンシロチョウの4種。植物ではギンギシの1種。今回記録された種は動物が14種、植物が21種。全体として、多くの種を見つけれなかった印象を受けましたが、これは調査の実施時期（昨年春の調査は6月12日と22日）が若干異なったことの影響でしょうか。Bゾーンに関しては、ガマなどの大型植物が昨年に比べて更に優勢になっており、生物多様性の維持という観点からも何らかの対策が必要と思われます。（環境保全課 橋爪）



植物リスト

アシカキ、アメリカセンダングサ、イ、イヌスギナ、ガマ、**ギンギシ**、スズメノテッポウ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、セリ、チガヤ、ノゲシ、ハコベ、ハルジオン、ヒメガマ、ヒメジョオン、ホタルイ、マコモ、ミゾソバ、ミント、ヨシ

動物リスト

15年度春の ～ は調査対象区割り表

名称	15年度				秋	16年度春
	①	②	③	④		
アカミカメ				+		
アカムシ					○	
アキアカネ		+	+	+		
アシイトトンボ			+			
アブラムシ	+++	+++	+++	+++		
アマガサリガニ	+++	+++	+++	+++	○	○
イオウイロハシリガモ			+			
イトミミズ					○	
オオアイトトンボ					○	
オオシオカラトンボ(産卵中)		+				
オオヨシキリ						○
オニヤンマ(ヤコ)					○	
オンブバッタ					○	
カダヤシ	+++	+++	+++	+++	○	○
カマキリ		+				
カメノコテントウムシ						○
カメムシ			+			
キアゲハ		+				
キアシナガバチ			+			
クサカゲロウ						○(幼虫)
クサグモ		+++				
クビキリギス			+			
コアシナガバチ						○
コガネグモ	++					○
コバネイナゴ					○	
コモリグモ					○	
サカマキガイ		+			○	
シオカラトンボ			+	+		○
シオカラトンボ(ヤコ)					○	

今回確認された種

シレーゲルアオガエル	+						
ショウジョウトンボ					+		
スジエビ							○
ヒゲナガアブラムシ		+					○
トシヨウ							○
ナガユガネグモ	+++	++	++				
ナツアカネ		+					
ナホシテントウ				+			○
ナミテントウムシ				+++	++		○(幼虫)
ニホニアカガエル	+						
ニホニアマガエル	++	++					
ヒダカ				+			
ヒタニシ		+					○
ヒラアブの一種			+				○
フタモンアシナガバチ			+	+			
フタモンテントウムシ			+++				
ベニシジミ			+				
ミスズメ	+++	+++	+++	+++			
ミスズメシ	+						
モクゴ							○
モンシロチョウ							○
合計	34					15	14

*+++非常に多い、++多い、+1個体でもいればチェック

●今回確認された種



花だより

佐々木光正



8月はガマとヒメガマは花を終えて果穂になっていますが、新たにコガマの果穂を見ることができます。三種類のガマを観察する方法の一つに水深との関係があります。水深が深くなるにつれて、コガマ ガマ ヒメガマと生えています。ガマ以外の大型植物も開花します。8月にはマコモ、9月にはヨシがそれぞれ花をつけます。これらの大型植物の足元ではヨシがそれぞれ花をつけます。これらの大型植物の足元では水田雑草などの小型植物が賑やかになります。白色のセリ、黄色のチョウジタデ、淡紅色のミソハギ・アカバナ・キクモ、紫色のコナギなど色とりどりで、矢じり形の変った葉をもつオモダカ(写真左上)の白い花が水田の中に見え隠れしています。8月には待望のイネ(写真右上)の花が咲きます。植物観察会は8月21日(土)と9月18日(土)です。



植物観察会は8月21日(土)と9月18日(土)です。

名戸ヶ谷の昔

藪崎恒雄氏談 (文芸資料館にて)

野仏のこと—名戸ヶ谷の「庚申様」と「六地藏」



観音堂墓地入り口

庚申様: 室町時代から受け継いでいる民間信仰のひとつ、庚申講、には石橋奉納、三夜様(名戸ヶ谷小入り口の小祠の13 仏板碑)、の他に大きな道路の村の入り口(三叉路)には庚申様があり、そこから疫病が村へ入ってこないように、名戸ヶ谷では7ヵ所に庚申塔が建てられていました。名戸ヶ谷小前(戸張へ行く道)、花野寮前(増尾への幹線道路)、焼き場近くの塔(中新宿へ通ずる昔の道路。宅地造成でこの庚申塔は現在八小前の庚申塔に合祀)、八小前(昔の日光街道へ通ずる道路)などです。庚申塔の下には必ず目・口・耳を塞いだ3匹の猿の姿が彫られています。これは「さんし」の虫(道教で言う「邪悪」)が人の腹の中に入らないようにとの願いを表しており、「庚申の日には気を付けろ！」と昔から言い伝えられてきました。神社の境内に多く見られる百庚申塔は数にモノを言わせて願い事を叶えたい、と思ったからでしょうね。上郷、観音堂墓地入り口には全国的にも珍しい庚申様があり(写真左上)、ショケラという小児を右手にぶらさげています。青面金剛像では市内で

一番古いものですが、昔は近くの三叉路にあったものでしょう。また、昔の女人講が建てた石橋も2ヵ所にありました。私の家の近くと、もう一つは今のバス通りから名戸ヶ谷ピオトープへ通ずる細い道の途中です。現在は香取神社に移設され、「願主女人講」と記されて保存されています。

六地藏: 名戸ヶ谷では2ヵ所にあります。法林寺の山門下、と池田庵墓地入り口の山道の土手。六地藏は六道思想に起源する平安の昔からの考え方で、死後の世界を六つに分け、前世の生き方によって死後は閻魔大王によって六つの世界に送られる。その六つの死後の世界の救世主が六体の地藏菩薩です。寺(墓)の境内に一步踏み入ればそこは地獄でしたから、六地藏はこの世とあの世の境界に立っているわけです。(聞き書き 広報編集部)



法林寺境内の六地藏

編集後記： 市政50周年企画「いきものフォーラム」。自然保護運動グループが一同に会し、日頃の活動を学び合う素晴らしい交流の場となりました。参加者からの熱い期待に応えて、実行委員会事務局の恒常化も決まりました。また、異常な暑さが幸いしてか、今年は稲の生育も見事です。スズメの先を越して、炎天下、みんなで頑張ってネット張りも完了しました。どうやら、稲刈りの日時も例年より早まりそうです。(広報担当 春山)